地産地消で地域とつながる

県立奥越特別支援学校　☎88-0050
学校HP

学校が取り組む地産地消

奥越特別支援学校が取り組む地産地消。実はちょっとすごいんです。

高等部の生徒で構成される農業班では、校内の畑で農作物を減農薬栽培し販売するほか、同校のザウルスベーカリーカフェで提供するパンの具や給食などに提供しています。

給食で出た野菜くずも、たい肥にして畑にまくなど無駄なく利用。こうした活動が評価され、昨年度、特別支援学校としては初めて地産地消等優良活動で北陸農政局長賞に表彰されました。

「栽培した野菜を食べてもらえてうれしい」と話す農業班で活動する高等部の生徒さんは、地域の方から「今度はなんの野菜ができるの」と聞かれるのが楽しみだそうです。

農業班の活動は体力づくりも兼ねており、就労支援の一環にもなっているそうです。

農業班の収穫の様子

カフェの開催に合わせて販売

同校の野菜や果物を使ったパン

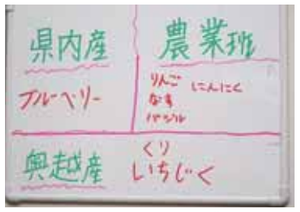
地場産品を美味しいパンでPR

ザウルスベーカリーカフェで提供する生徒手作りのパンには、同校産のほかにも県内産や奥越産の野菜や果物が使われ、お客さんにわかるように表示されています。

食品加工班の中野叶多さん（高等部2年生）は「おすすめは農業班の野菜や果物を使ったパン。自分たちで作ったものは美味しいです」と、なすとバジルのパンやリンゴのパンを見せてくれました。

また、カフェの開催に合わせて販売される野菜は「安くて美味しい」と地域の方に評判です。

地域とのつながりを大切にする同校の活動に、今後も注目です。



カフェ内のホワイトボードに食材の産地が表示される

生徒がコツを伝授　パン教室開催

10月9日、食品加工班の生徒たちが参加者にパン作りを教えるパン教室が奥越特別支援学校で開かれました。

参加者8人に一人ずつ生徒が付き、参加者は楽しく会話しながら、生地の巻き方や具の包み方を生徒から教わりながら一緒にパンを作りました。

参加者には「カフェで知って参加した。会話しながら教えてもらったのは新鮮」「パン作りは初めて。生徒の教え方と笑顔がよかった」と好評でした。

交流タイムでは、生徒たちがパンができるまでを解説。地域や学校の皆さんにおいしく食べてもらえるよう頑張っていると思いを伝えました。

勝山市×奥越明成コラボプロジェクト

奥越明成高校生 市長と語る会

時10月9日　所市役所

奥越明成高校の各科、各コースの代表5人が、市の現状を踏まえ、専門学科の学びを生かしたプロジェクトを市長に提案しました。

生徒らは、プロジェクトを実行する上での課題も考慮しており、市長は「よく考えている」と感心し、実現に向けてアドバイスしました。

市は、今後も、若者が意見を述べる場を設定するなど、未来を担う人材を育てる教育に努めます。

勝山バリアフリー化

機械科　天池友彦さん

10年後、市の高齢者の割合は40％を超えると予想されている。これは足腰の悪い人や家からあまり出られない人が増えるということ。

そういった方々が毎日快適な生活を送れるように、高齢者の要望を聞き、段差の高さに合わせたスロープを作製、机やいす、愛着のあるものなどの修理に取り組みたい。

高齢者が快適・安全に生活できるように、若い力を頼ってほしい。

光は人を呼ぶ。光で勝山を明るくしよう

電気科　加藤航真さん

勝山の祭りはにぎやかさが少ない。スキージャム勝山のように光を使うことで、人を集めることを提案する。

祭り会場までの街路樹や左義長の短冊などをイルミネーションで装飾し、町全体をお祭りモードにする。

お客さん自らが発電し、点灯する参加型のイルミネーションを作る。参加者には祭りで使えるクーポンを渡すなど、集客力を上げることも考えられる。

たくさん集めろ、観光客

ビジネス情報科　廣瀬文月さん

勝山市の観光資源をPRするポスターを作成し、夏なら恐竜博物館、冬ならスキージャムという観光客が集まる場所に展示する。

「次はあそこに行こう」と思わせることで、観光客が増えると思う。観光客を増やし勝山の町おこしや活性化につなげることができる。

明成発　勝山ソウルフードレシピ開発

生活・福祉科　生活コース　山根舞雪さん

地元食材を使った、勝山の恐竜や左義長祭りをモチーフにしたレシピを、市内の飲食店に提供したい。

ケーキの上でかわいい恐竜が左義長の囃子をたたく様子を表現したり、まわりに左義長の短冊の色である緑色、黄色、赤色のホイップで装飾。

食べなれた食材の魅力を新しい形で再確認し、県内外の方に勝山の食材をアピールすることができる。話題になり、勝山の活性化にもつながるのではないかと考えた。

明成食堂に集え、勝山市の老若男女たち

生活・福祉科　福祉コース　滝本果音さん

「勝山に住む老若男女みんなでわいわいご飯を食べたい」「地産地消を目指し、高校生が作る郷土料理を食べたい」という思いで考案。

勝山には密な関わりができる場所、郷土料理を味わえる場所が少ないように感じる。

高齢化により単独世帯が増加し、一人で食事をしている高齢者も多いのではないか。楽しい食事、豊かな食文化の再確認、自分の住むふるさとを好きになる、高校生が活躍、町全体のイメージアップなどの効果を期待できると思う。

問学校教育課（教育会館2階）☎88-8112
会の詳細はこちら
市HP